

私たちの町の文化財

■第4話 高橋東神社の大クスノキ

坪井川と井芹川の合流点、高橋東神社は、奈良時代に肥後国の長官（国司）であった道君首名（みちのきみのおびとな）を祀る神社です。地元では「天社さん」として親しまれてきました。その境内にそびえるのが樹齢1000年以上、市の天然記念物にも指定されている大クスノキです。幹回り23m、高さ22mの堂々たる佇まいは、対岸からもはっきりと見ることができます。

この高橋東神社から少し下流側で、昭和51年に高橋南貝塚が発掘されました。中国産の陶磁器などが出土し、この地が平安時代～鎌倉時代に港として栄えていたことが明らかとなりました。ここからは川を下って有明海へ出ることができ、さらに当時肥後国で最も栄えていた二本木にも近いことから、良好な港町として発展したのでしょう。

所変わって、玉名市の伊倉には別名「唐人舟繋ぎのイチョウ」と呼ばれる大イチョウがあります。中世当時、伊倉も高橋町と同じように港町として栄えており、このイチョウに貿易船を繋いだという逸話も残されています。どちらの大木も、港町で大切にされてきたものです。当時の船乗りたちにとって、「港のランドマーク」のような存在だったのかもしれない。
（熊本市文化振興課 後藤愛弓氏）

数年前に二本木遺跡群から朝鮮半島で作られたと思われる高麗青磁碗が発掘されたが、これらも当時の交通の要であった坪井川経由で運ばれてきたのかな

